

Title	カウツキイ校訂 資本論 第一巻平民版
Sub Title	
Author	小泉, 信三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1919
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.12 (1919. 12) ,p.1657(121)- 1663(127)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19191201-0121">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19191201-0121</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

(其の著者はスレー氏の翻譯に依りて、直ちに佛蘭西に於て、出版せられむ。) 依て、吾人は此の書に於て其の最も懇切なる分類に關する批評を採用したり。ピエルソン氏は予が價値の研究より始めたるを推奨せり、されども、消費論の爲めに一項を頗ちしなを不要なりとなせり、而して彼は分配を以つて生産の以前に論すべしと評せり何となれば吾人は前者なくして後者を了解する能はざるが故也と、これは或程度まで正當なるべしと雖もピエルソン氏に從ひて其の順序を採用したる場合には斯く言ふことを得べし。されども資本を知らざる以前に如何にして利子を了解するを得べき、產業の組織を知らざる以前に如何にして賃金労働者を了解することを得べき。

明かに經濟學上の凡ての部門は相互に相倚頼し而して此處に此の科學の一致を明確に示すもの也。然れども結局一つのものより始めて他のものに終らざるべからざるには相違なきも、生産を以て結了せしむることは正さに噴飯すべき事實なるが如き觀なきや。

以上は第四版に改載せられたる所也、第三版の文に就きて見るに、其の意大體相同じと雖も大戰に際して改められたる新版の巨細に亘れる議論は亦其眞價充分に認めらるゝ所也、曾て本

### 千金の力有るべし

(附記) 編者が曩々に臼井氏に囑するにジード氏經濟原論第三版と第四版との比較研究を以てしたるは、單に其重要の差違數點に就きて之を論述せられんことを期したるものなるに、同氏が原著者に私淑するの深き、其改訂の全部に對して重要な意義を認め、一々之を列舉したるが爲め、其稿は實に數百枚の長編と爲り、本誌の紙幅は到底其全部を掲載し得ざるに至れり。即ち遺憾乍ら其當初の一片を掲ぐるに止めたり。聊か記して本誌が同氏の多大なる努力に報ひ得ざりしを謝す。

(編者)

### 新 刊 紹 介

### カウツキイ校訂「資本論」

### 第一卷平民版

### 小 泉 信 三

Das Kapital. Kritik der politischen Oekonomie von Karl Marx. Erster Band. Buch I: Der Produktionsprozess des Kapitals. Volksausgabe. Herausgegeben von Kurt Kautsky. Stuttgart 1914.

「資本論」平民版は一九一四年夏、纔かに歐洲大戰の破裂に先んじて世に出でたるを以て、未だ之を知らざる人多かるべし。此書はマルクス著作の版權期限盡きて、一九一四年一月一日よりその複刻自由となるを期とし、舊獨逸社會民

塾の三邊教授が、福田小泉兩教授の所論に對して不満したる經濟學四分法の辨を讀みしと有り、教授が數千言を費して繰返されたる斯論も、ジード氏は之を僅々二頁の裡に於て遺憾なく言ひ表はせり、殊に其の枝葉に至りては之を論ずるの反つて、愚なることを明かにせり。

第四版の消費者及び生産者に對する論説は察するに彼が這回歐州の大戰亂に遭遇して、取得したる最も重要な贈物ならずや、又第四版の緒言全體に亘りて叙述せる所一として、此の問題に觸れざるはなし。殊に第二編に收めたる其の消費及び分配に關するもの、中には、多大なる改訂の加へられたるを見るなり。洵に彼に與へし、戰爭の影響は、甚大なるものありしなり。消費の方面よりする世界の改造は當に來るべき重要且不可抗の運動なるべし。

此脚註に於てピエルソン氏を攻撃するところ

主黨のカウツキイに依頼して校訂刊行の事に當らしめたるものに係る。目的は獨逸労働者をして其師の最重要著作(資本論第一巻)に近づか易からしめんとするにあり。而してカウツキイは此書の校訂を以てそのマルクス遺稿出版事業の一役落とすと記せり。

「資本論」平民版の特長は校訂の嚴密にして最もよく著者の眞意を傳ふると共に、是と兩立する限り獨逸人たる讀者の了解を易からしめんが爲め百方意を用ひたる點にあり。

「資本論」第一巻はマルクスの生前二版を重ね死後更に三版を重ねたり。死後の版はエンゲルスの校訂するところなるを以て最も信憑するに足る可疑なれども、カウツキイは是に據りやマルクス生前の最終版たる第二版を以て底本となしたり。其主なる理由はエルグ尔斯校訂本に誤植多くして時に理義の會得を妨ぐるが如き事

珍らしからざるを以てなり。カウツキイが掲げたる誤植の十數例左の如し。(備考、最初の数字は第一版(正)の頁數、後の数字は第五版(誤)の頁數なり。)

814: hoffnungsvolle & hoffnungslose (X)  
107: Auswechselung & Abwechselung (90)

123: Verwandlung von Naturalrente in Geldrente  
& Goldrente (104)

150: Zirkulation ist die Summe aller Wechselbeziehungen & Warefbeziehungen (128)

191: Der Wert steht in direktem Verhältnis zu dem Neuwert, den er zusetzt & ersetzt (164)

218: Mehrarbeit & Mehrheit (189)  
229: räumlich & nämlich (198)

277: Das französische Arbeitervolk & Volk (240)  
415: unnatürliche Entfremdung; der Mutter

gegen ihre Kinder & natürliche Entfremdung etc. (362)

447: 12 Shilling & 15 Shilling (390)

515: Arbeitsteilung & Arbeitsenteilung (454)  
529: Merverträge des Feldes & Mehrbetrag (471)

531: Lederfabrik & Ledertafrik (413)

565: politische Oekonomie & englische Oekonomie (506)

567: Arbeitszeit & Arbeitstag (511)

576: fruchtbare & fruchtbar (515)

582: Anspruch & Ausspruch (521)

590 Dies Geld ist nur die verwandelte Form des Arbeitsprodukts (oder vielmehr eines Teiles des Arbeitsprodukts)の括弧内の句を落せり

カウツキイは斯の如き誤植を數ふること實に百五十に及ぐりとある。

然れどもエンゲルス校訂版は遽かに放棄す可からず。そは第一版手澤本にマルクス自ら記入

利用すべしるの」なる事を記せるに徴して明なり。エンゲルスはマルクスが佛譯の爲めになじたる増訂の中、マルクス自ら指示するところのものゝみを採用したりしが、カウツキイに至てはその目的獨逸労働者をして「資本論」に近づれ易からしむるに在るを以て、更に一步を進め、原著の深さと特色とに觸るゝ事なき限り、佛譯の爲めにマルクスが加へたる變更にして讀者の了解を助くべしと認めらるゝものは採用して可なりと信じ之を敢てしたりといふ。

エンゲルスの佛蘭西譯利用は爲めに多少の不正確を生ぜしめたることあり。例へばマルクスはミルの經濟原論(一八六〇年、第二一五三頁)より一節を引いて左の如く佛譯し

*Je presuppose toujours l'état actuel des choses, qui prédomine universellement à peu d'exceptions près, c'est à dire que le capitaliste fait toutes*

此條件を挿入するときはマルクスの批評は的ないに放てる矢たるに歸すべし。故にカウツキイは此一節を省略する事を敢てしたりと云ふ。カウツキイは更にマルクス其人の誤謬をも匡したりと記せり。そはマルクスの誤記なる事明白なるものにしてマルクスが支拂手段(通貨)の必要量は支拂期間の長短に正比例すとすぐれを反比例すと記せるはカウツキイの掲げたる實例の一つなり。

以上はカウツキイが所謂「訂正」の業 *Berichtigungsprozess* の大略なり。次にカウツキイをして苦心せしめたるものをその所謂「純化」の業 *Reinigungsprozess* とす。「純化」とは資本論中の外國語又は外國語系の文字の整理の謂なり。

「純化」の業の大部分を占むるのはマルクスの英語癖(姑らく *Anglizismen* を譯して英語癖と云ふ)の整理なり。マルクスは英佛獨三國語を

les avances y inclus la rémunération du travailleur.(p. 222)

(余は殆ど僅小の例外を除くの外到處に行はるゝ事物現在の狀態、即ち資本家は労働者に對する支拂をもその中に含める、一切の前拂をなす事を常に想定す)

之に對してマルクスは語を加へて *Etrange illustration d'optique de voir universellement un état de choses qui n'existe encore que par exception sur notre globe.* (地球上に於て纔例外的にのみ存する狀態を到るところに認むる奇なる錯視)と云ひ、エンゲルスは忠實に之れを獨逸語に反譯したり。然るにミルの原文を見れば「余は、資本家と労働者とが別の階級をなすところに於ては僅小の例外を除くの外殆ど到處に行はるゝ云々を想定す」とありと旁點を附したる一句はマルクスの看過するもいふなりし事明なり。而して

自由に驅使し、その意を最も適切に現はさんが爲め屢々故らに外國語を用ひたり。此の如き場合の英語癖は固よりマルクスが文體の特色をなすものにして之を尊重せざる可からざる事論を俟たずと雖も、時にその英語癖の全く無用なるに止まらず、進んで理義會得の妨害をなせる事また珍らしからず。マルクスは自らその整理を行ふの意あり、エンゲルスはその意を受けて、その校訂版に於て或程度まで之を行ひたれども、カウツキイはその目的労働者をして「資本論」に近づき易からしむるに在る事上述の如くなると、エンゲルス其人が已に英語癖を有し、マルクスの癖を矯むるに必しも適材ならざると顧み更にエルゲルスに一步を進めたり。今カウツキイが記すところに從ひ、エンゲルスの整理に漏れたる英語癖の二三を、資本論第四版中より摘出して左に掲ぐべし。獨逸語のみに通ず

る讀者は恐らくその意義を推測する事能はざるならん。

即ち一三九頁ベンタムの學説を論ずるの條下に曰く「各人は己れの爲にのみ kehrt し何人も他人の爲に kehrt する事なし」と。この kehren が英語の care の義なる事は何人も思ひ寄らざるところなるべし。

furnace を纏ひて Schief auf dem Flur わたし、爲めに佛譯者を誤りて床に睡るゝが人は野に睡らしからねだり J'ai dormi dans les champs. 又英語の rough を獨逸語の rauh わたし、大凡をぬぐへぐぬぐりて疎野なるをばら (III〇〇頁) 英語の undergo を直らし untergehn わたして間するを休やどるを衰減又は沈下するをひる不安 restless を rastlos 無休をなし(四五六頁) liquors を直譯して液體を Liköre リキウムに變

せしめたり（五六四頁）。

Segui il tuo corso, e lascia dir le genti ! 之  
Geh' deinen Weg und lass die Leute reden ! 之  
『繼續が附せよ』曰く此の如き De te fabula  
narratur 之 es ist deine Geschichte, die hier erzählt  
wird 之 意味なる事の附記せよ 第11版跋題中

當つては聰明なる獨逸勞働者の理解力を以てその標準としたりと云へり。吾人固より獨逸勞働者の理解力に關してカウツキイと爭ふ資格なし  
余の批評は恐らく當を得ざるならん

更にリヤザノフ、Rjasanoff カ手に成れる索引は讀者を助くる事渺少ならざるべし。この索引は引用書目、人名及び事項索引の三部に分れ、ウンタアマン補訂英譯資本論の索引はその詳密の程度に於て之に比して遜色あり。

書題號 Teoria Cenností i Kapitala D. Ricardo の著  
に引用せられたるキエフ大學教授ジイペルの著  
「リカルドの價値及び資本學說」の義なる事を  
知るを便利とするならん。カウツキイは更に進  
んで、本文開卷第一頁、「資本主義的生產方法の  
行はるゝ社會の富は無數の商品の集合を以て成  
る。個々の商品は富の元素形態なり」と云ふ  
Elementarform と Ausgangsform と註し、「故に  
吾等の研究は商品の解剖を以て始まる」と云ふ  
Analyse と Zergliederung と註し、更に「鐵、紙  
等の如き有用物は何れも品質及び分量なる二の  
見地より之を觀るべし」の Qualität と Bescha-  
ffenheit と Quantität と Menge と註したり。此の  
如きに至つては吾人を以て見れば稍々無用の感  
なきを得ずと雖も、カウツキイは之をなすに當  
つて過ぐるよりも寧ろ及ばざらん事を恐れたり  
而してカウツキイが註解の必要無用を決するに